

在留外国人は幸せか？：自治体調査を手掛かりに（プロGRESSレポート）

高橋義明^a

要約

2019 年 4 月から単純労働を担う特定技能が認められた。日本は外国人の年間流入数で見ると OECD 加盟国中 4 位、気づけば 273 万人の外国人が暮らす移民大国である。海外では移民の幸福度は重要テーマであり、世界幸福報告書などが扱っているが、国内では留学生の幸福度以外には見当たらない。本稿では在留外国人の幸福度に関する全国規模調査は存在しないため、T 市が実施した外国人意向調査の個票データを利用して、日本における移民の幸福度について検討した。

回帰分析の結果、日本語が話せることが幸福度にプラスに有意であった。また、時間外割増賃金が支払われないなどの法律違反がある職場で働く、日常生活で嫌な思いを経験した者など日本社会の悪い面を経験した者は幸福度が低かった。外国人の日本社会に対するイメージを悪くし、結果的に幸福度を下げ、日本社会との分断を産む可能性がある。幸福度を検証対象にした移民政策が求められている。

JEL 分類番号： I31, F22, C31

キーワード： 移民, 幸福度, 日本

^a 公益財団法人中曽根康弘世界平和研究所 ytaka2001@hotmail.co.jp

1. 移民大国日本の出現と幸福度

日本には永住権をもつ在日中国人，韓国人に加えて，定住権を持つ日系 2 世，3 世，留学生 30 万人計画で増加する留学生，高度人材ポイント制による高度人材，技能実習生，そして 2019 年 4 月から単純労働を担う特定技能での移民が認められた。OECD の国際移民統計による年間の外国人流入数でみるとドイツ，アメリカ，イギリスに次いで OECD4 位，総人口比でも 1989 年の 0.8% から 2.2% に上昇し，気づけば 2018 年末時点で 273 万人の外国籍が住む移民大国になっている¹。そうした中，海外では移民の幸福度は大きな研究テーマとなり，2018 年世界幸福報告書が特集を組んでいる。しかし，国内の研究では留学生の幸福度以外には見当たらない。そこで本稿では国内の既存調査を利用して，日本に在住する移民の幸福度の決定要因について検討する。

2. 先行研究

移民の幸福度研究は，上述の通り，2018 年世界幸福報告書が特集テーマにするなど，海外では盛んに行われている。受入国の国民と移民の幸福度のギャップや移民同士のギャップに焦点を当てた研究（Bartram 2011, Senik 2014, Tegegne and Glanville 2019 など）がなされ，例えば Calvo and Chueng（2018）は出身国の所得水準が低いほど所得が移民の幸福度に与える影響が強いことや受入国への移住から時間が経過するほど幸福度が下がっていくことなどを明らかにしている。また，欧州社会調査のクロスセクションデータを使って受入国の原住民が移民を肯定的にみているか，否定的にみているかが移民の幸福度に影響すると報告するもの（Hendrik and Bartram 2018），移民の幸福度や受入国に対する尊敬の念が時間の経過により薄れていくことを明らかにしているもの（Hendriks and Burger 2018）などがある。

一方，日本国内では留学生の幸福度を扱ったもの以外は筆者が検索した限りなかった。したがって，本稿で在日外国人の幸福度を検討することは今後の移民政策を検討する上で重要と考えられる。

3. 実証研究

3.1. データ・変数

使用したデータは基礎自治体 T 市が同市内在住の外国人に対して実施した意向調査である（n=245）。対象者は住民基本台帳からの無作為抽出に一部日本語学校学生に補充を行な

¹ 日本政府は OECD の移民データベースに出入国数以外は提供していない。

っている（18 歳以上の男女）。調査項目には幸福度（「あなたの幸福度はどれくらいだと思いますか」の 11 件法）に加えて、性別、年齢階層、在留期間、国籍、在留資格、婚姻関係、子どもの有無、仕事の有無・職業などの個人属性、地域の日本人とのつきあい、地域活動の参加や防災、仕事、日本語、教育・子育て、医療、住宅などでの困りごと、トラブルの有無などがある。以下では幸福度を従属変数にして検証を行う。分析は R version 3.5.1 で行なった。

3.2. 属性別結果

回答者の平均幸福度は 7.044 である²。男女別でみると、男性が 7.179、女性が 6.973 と男性が高く、一般的な幸福度調査と結果が相違した³。年齢階層別では 20 代も低かったが、60 歳以上が最も幸福度が低く、日本人に似た結果となった（20 代 6.419, 30 代 7.417, 40 代 7.190, 50 代 7.537, 60 歳以上が 5.893）。婚姻関係別では未婚 6.293, 既婚 7.331, 離別・死別 6.619, 子どもの有無ではあり 7.180, なし 6.861 と一般的な幸福度調査と同様の結果となっていた。仕事の有無では仕事あり 7.077, なし 7.180, 以前仕事あり 6.667 と仕事なしが最も幸福度が高かった⁴。職種別では自営業・家族従業員は回答人数が少ないが 8.000 と最も幸福度が高く、次いで一般会社員 7.324, 会社役員 7.167 で、パート・アルバイトが 6.588 と最も幸福度が低かった。所得に関する質問がないため、仕事上の困りごととして「賃金が低い」を挙げた者の幸福度をみると 6.360 とそれ以外の者（7.128）よりも低かった。さらに職場で「法律違反がある」を挙げた者の幸福度は 5.731 とかなり低かった。

次に、移民特有の属性において、回答者が 5 名以上いる国籍についてみると、米国 8.600, フィリピン 8.000, ブラジル 7.600 と幸福度が高い一方、インド 7.250, 中国 7.085, 韓国 6.362, 朝鮮 5.800 と低く、東アジア出身者は相対的に幸福度が低かった。また、在留資格別については日本人の配偶者等が 7.674 と最も幸福度が高く、技能 7.500, 人文知識・国際業務 7.250, 家族滞在 7.167 が続き、永住者 7.157, 留学 6.800, 技術 6.643, 特別永住者 6.625, 永住者の配偶者等 6.167, 定住者 6.000 で幸福度が低かった。在留期間別では 1 年以内が最も高く、1～5 年が最も低かった。また、日本語を話せる者は 7.139 と話せない者（6.688）に比べて幸福度が高かった。

地域の日本人とのつきあいでは「つきあいなし」が 6.542 と幸福度が最も低く、「相談者あり」が 7.457, 「立ち話をする者あり」が 7.415, 「お互いの家を行き来する者あり」が

² 同市において日本人に対して実施した幸福度調査はないため、内閣府・平成 23 年度国民生活選考度調査の結果（6.41）と比べると T 市在住外国人の幸福度の方が高かった。

³ t 検定では有意差はなかった。

⁴ 求職中か否かの質問がないが、失業者が含まれると考えられる。

7.328 と高かった。地域活動の参加別では「地域活動をよく知らない」が 6.722, 「参加していない」が 6.837 と幸福度が低く, 「ボランティア活動に参加」が 7.958, 「母国文化の普及活動に参加」が 7.563, 「学校活動に参加」が 7.435, 「自治会・子ども活動に参加」が 7.353 と高かった。

また, 日常生活で嫌な思いをする者はしない者に比べて幸福度が低い (それぞれ 6.556, 7.451)。病院などで困りごとがある者もない者に比べて幸福度が低い (それぞれ 6.650, 7.318)。住宅で困りごとのある者も同様だった (それぞれ 6.667, 7.440)。震災に不安がある者も幸福度が低かった (それぞれ 7.000, 7.179)。

3.3 回帰分析結果

上記でみてきた変数のうち, 幸福度と相関が強いものを特定するため, 重回帰分析を行った⁵。Model 1 は個人属性と移民特有属性の変数のみ, Model 2 は Model 1 に日本社会との関わりに関する変数を加えたモデルである。

それぞれの結果は表 1 の通りである。Model 1 をみると, 個人属性では 60 歳以上, 未婚, 賃金が安い (低所得の代理変数), 移民特有の属性では東アジア出身がそれぞれ幸福度に対してマイナスで有意であった。また, 日本語を話せるはプラスで有意であった。一方, 女性, 仕事あり, 以前仕事あり (失業中の代理変数), ネパール出身, 永住者・定住者等について符号条件はマイナスだったが, 有意ではなかった。また, 子どもありについて符号条件はプラスだったが, 有意ではなかった。

Model 2 では, 個人属性, 移民特有の属性について Model 1 と同じ結果となり, その上で嫌な思いをしたことがある, 時間労働外割増賃金がない, 有給休暇がない, 社会保険に加入させてもらえないなどの職場で法律が守られていない者は幸福度に対してマイナスで有意であった。地域のボランティア活動に参加している者はプラスで有意であった。一方, 隣人と立ち話などの地域の日本人との関わりは幸福度に対して有意でなかった⁶。

4. おわりに

本稿は日本で移民が急増する一方, 移民を対象とした既存の幸福度調査が限られる中, 一自治体で実施された意向調査を活用して, 移民の幸福度を検討した。あくまで 1 時点でのクロスセクション分析であるため, 因果関係を明らかにするものではなく, 解釈におい

⁵ 順序プロビットモデルでも同様の結果となっているが, 限界効果が比較しやすいため, 重回帰分析の結果を示した。

⁶ あわせて留学生, 震災への不安, 病院, 住宅で嫌な思いをした経験についても変数に加えたモデルも検討したが, いずれも有意でなかった。留学生は回答者が 5 名と少ない影響も考えられる。

ては慎重な検討が必要である。しかし、まず日本語が話せる者は幸福度が高かった。日本社会においてはいわゆる「やさしい日本語」でも日本語が話せ、コミュニケーションが取れることが重要になっていると考えられ、来日前・直後の日本語教育の重要性が伺われた。特定技能制度で課される日本語能力試験がこうした日本語の会話能力を測定できるか検証することが重要になる。さらにドイツが移住後に実施しているようなドイツ文化を学ぶ機会の提供も受入国民とのコミュニケーション上、重要である。また、ボランティア活動に参加し、社会と積極的に関わる者は幸福度が高く、地域社会との関わりが影響している可能性がある⁷。一方、経済的移民が多い中、職場で法律違反が行われていると幸福度が低かった。厚生労働省（2019）によると技能実習制度に関連して労働時間、安全基準、割増賃金に関する法律違反が多発している。働く人の権利が守られない企業が多いことは外国人の日本社会に対するイメージを悪くし、結果的に幸福度を下げ、日本社会との分断を産む可能性を示唆する。同様に日常生活で何らかの嫌な思いをしている者も幸福度が低く、日本社会の民度が問われている。

日本における移民の幸福度研究はますます重要になっていくであろう。今回は一自治体の意向調査を利用しており、日本に暮らす外国人を代表しているかは明らかではない。今後も同様の研究が進められることによりこの分野での研究が発展することを期待したい。

表 1 回帰分析結果

	Model 1		Model 2	
	Cor.Coeff	Std.Error	Cor.Coeff	Std.Error
定数項	7.708	(0.462) ***	7.794	(0.487) ***
(日本社会との関わり)				
立ち話できる隣人			0.356	(0.271)
相談できる隣人			-0.101	(0.297)
日本人とのつきあいなし			-0.251	(0.418)
嫌な思いをした経験あり			-0.801	(0.261) ***
ボランティア活動参加			1.004	(0.406) **
職場法律不遵守			-0.687	(0.337) **
(個人属性)				
女性	-0.137	(0.293)	-0.092	(0.285)
60歳以上	-1.228	(0.488) **	-0.876	(0.480) *
未婚	-0.803	(0.387) *	-0.794	(0.375) **
子どもあり	0.256	(0.290)	0.145	(0.284)
仕事あり	-0.321	(0.326)	-0.141	(0.315)
以前仕事あり	-0.523	(0.481)	-0.160	(0.462)
賃金安い	-0.937	(0.320) **	-0.862	(0.423) **
(移民特有属性)				
東アジア出身	-0.598	(0.297) *	-0.544	(0.296) *
ネパール出身	-1.303	(1.079)	-0.869	(1.028)
永住者・定住者等	-0.569	(0.359)	-0.427	(0.341)
日本語話せる	0.741	(0.317) **	0.586	(0.318) *
n	196		187	
Adj R ²	0.139		0.229	
AIC	798.5		743.0	

(備考) * <1%, ** <5%, *** <10%を示す。

⁷ 幸福度が高いからボランティア活動に参加する逆の因果関係も考えられる。

引用文献

- Bartram, D. 2011, Economic migration and happiness: Comparing immigrants' and natives' happiness gains from income. *Social Indicators Research* 103.1, 57-76.
- Calvo, R., and F. Cheung., 2018. Does money buy immigrant happiness?. *Journal of Happiness Studies* 19(6), 1657-1672.
- Helliwell, J. F., Layard R., and Sachs, D., 2018. World Happiness Report 2018.
https://s3.amazonaws.com/happiness-report/2018/WHR_web.pdf
- Hendriks, M., and D. Bartram., 2016. Macro-conditions and immigrants' happiness: Is moving to a wealthy country all that matters?. *Social Science Research* 56, 90-107.
- Hendriks, M. & M. Burger., 2018. Unsuccessful Subjective Well-Being Assimilation Among Immigrants: The Role of Faltering Perceptions of the Host Society. Tinbergen Institute Discussion Paper 2018-080/VII.
- 厚生労働省, 2019. 外国人技能実習生の実習実施者に対する監督指導、送検等の状況（平成 30 年）. <https://www.mhlw.go.jp/content/11202000/000536124.pdf>
- 内閣府, 2012. 平成 23 年度国民生活選考度調査（平成 24 年 6 月）.
<http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10361265/www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>
- Senik, C., 2014. The French unhappiness puzzle: The cultural dimension of happiness. *Journal of Economic Behavior & Organization* 106, 379-401.
- Teegene, M. A., and J. L. Glanville., 2019. The Immigrant-Native Gap in Subjective Well-Being in Western European Countries: Assessing the Role of Social Capital. *International Migration Review* 53.2, 458-485.

謝辞

公益財団法人日本証券奨学財団（The Japan Securities Scholarship Foundation）の助成を受けた。T 市からは在住外国人意向調査の個票データの提供を受けた。